

郷土史抄

故濟先生の遺影を憶ふ

瀧川家の史料採訪
鮫川 漁 史

予が初め、近代の磐城人物中より、特に人格、學識の併備せる縣政治家を發見せうとして、餘り世に知られぬ瀧川先生の如き求め得た時の感と又同家の史料を採訪したる後の感とは同一で、寧ろ始めの想像よりも偉大なるを知るに至り、予は甚だ我意に的中し、欣快措く能はず、此に彼の遺稿を整理中、其の傍ら大凡その事歴を、郷土の内外に紹介してみよう。(詳傳の一部は隨筆的に磐城公友で連載の予定)

(一)人と爲る一端と其の志行

先生は泉藩醫師瀧川太仲二男(異本には明とあり何れが真か)天保十一年月の生れである。長ずるに及んで安井息軒に學び、業成り歸藩して大目付支配教授方(和漢の講義ならん)に擧げられたが、金祿は僅かに一人扶持の微士に過ぎなかつた。先生が息軒の熟舎に在つた時最も親しくした同門の士を序いでに例出すと、

谷干城 渡邊昇 三浦安
照田清綱 増戸武平 柴原和 土岐裕 三好退蔵 柳田直平 龜谷行 安藤太郎 澁谷啓藏 山井幹六 石井重倫 松木豊多 小篠次郎 石幡貞 牧田義雄 澤村則辰等で、其等の友人は後世何れも國家的重要な人物と爲つたのが多い。維新前後より晩年までの知己、友人の關係は追て列示する。

彼れの父祖、兄方に就ては系圖、家記が散失した爲、詳しく分らず、又當主ウノ子にも能く知らないので、少しく物足りないが、同姓の一番、一正、稻水、濟等皆父子兄弟で内一善は號を關北、或は鮫水と云つて經史、詩文を能くし其の遺稿には「鮫水詩草」がある。又一正は明治新政の際泉藩少参事に推んでられ、稻水は菊多郡第一回選出縣會議員となり、濟は補缺に當選、衆望の下に縣會副議長に擧げられた。

牛も豚も優良品の自慢

肉の御 三三屋 平町 田町
用命は

清爽簡易な
サンマードレス
婦人用とお子さん用
各種、華やかに陳列
中元贈答用品...各種

ツルヤ
平四 電一四〇

お醤油は ヤマフル

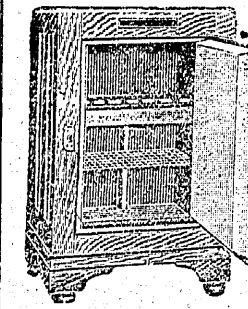
醤油味噌
たひら正宗
鯉節食料品

山崎合名會社

電話 一〇七〇番
山崎與三郎

冷却力が永久に衰へず
いつまでも使へる冷蔵庫

冷蔵器は一と夏や二た夏で構造に狂ひが来て冷へ方が弱る様では眞の文化的重寶と云はれません、其所で木材を最も廉價しそれを完全なる設備の下に數年間十二分に乾燥して使用する、丸はん冷蔵器は絶対に狂ひを生ぜず永久によく冷へる經濟的冷蔵器として御愛用の皆様の間に古くから多大の御信用を博して居ります。



岩谷冷蔵器の代理店
も致して居ります

油問屋 關内油店
電話長 16

ガソリン
モビル油
日本株式會社
石油株式会社
特約販賣

農村の更生振興に 天然加里肥

最も適應する作物!
蔬菜 馬鈴薯 里芋 しやうが類
瓜果類ではトマト 茄子の如き比較的病害に弱い作物に施用すれば抵抗力を與へ落果を防ぎます
天然加里肥は酸性でないから
如何に施用しても土壤を感變する虞は絶対にありません

一俵 廿五錢
製造販賣 金成國雅
平町鎌田 電話 六八八番

貨物自動車の御用命
に應じます

石炭
コークス
炭
水野石炭店
平町郵便局通り
電話 二九九番

目科療診
一、齒科 一般
保存科、補綴科、鑲齒工科、
齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿瘍科、
一、口腔外科
レントゲン科

中野齒科醫院

院長 日本齒科
醫學士 中野 惠次
日本齒科
醫學士 西川 誠
平町出町(松月堂向ひ) 電話五〇九番

(磐城共濟病院)

內科 院長 醫學博士 石山 謙
小兒科 部長 醫學士 藤 尚輔
産婦人科 部長 醫學博士 五十嵐 雄二
外科 部長 醫學士 大町 久藏
皮膚泌尿科 部長 醫學士 山澤 謙
器病科 部長 醫學士 前山 謙
眼科 部長 醫學士 石山 謙
耳鼻喉科 部長 醫學士 石山 謙
泌尿科 部長 醫學士 石山 謙
藥劑科 部長 藥劑師 鈴木 本平
事務局長 鈴木 本平
(每日午前八時より午後十時迄診察)
病室完備 入院隨意

Advertisement for a shop or business with large stylized characters and decorative borders.